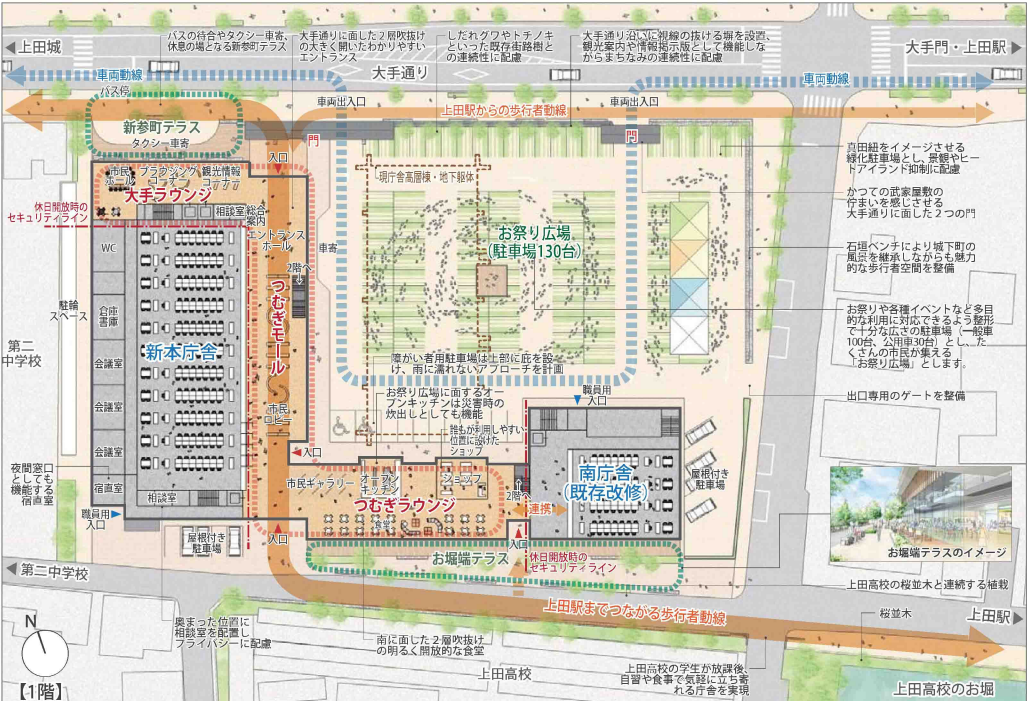
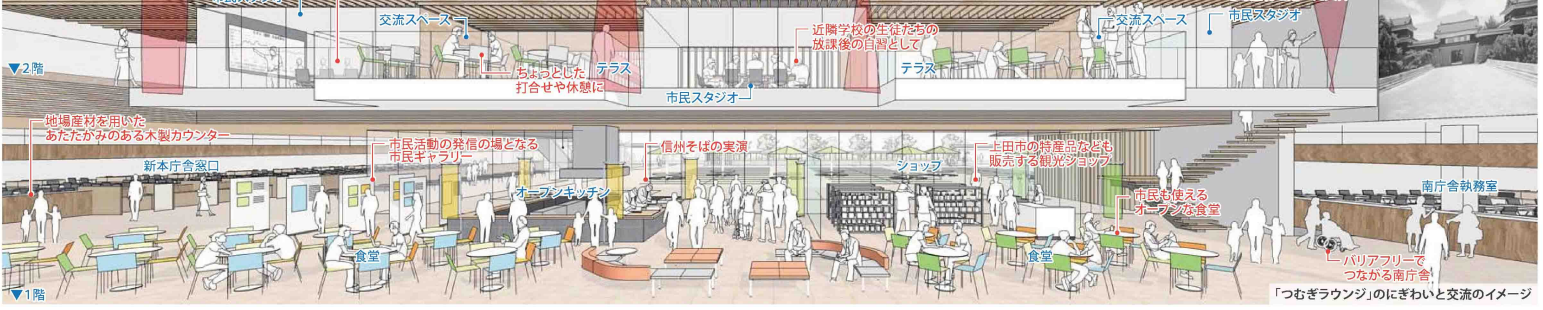
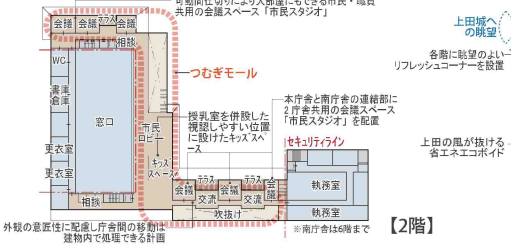


人とまちと歴史を紡ぐ杵形庁舎



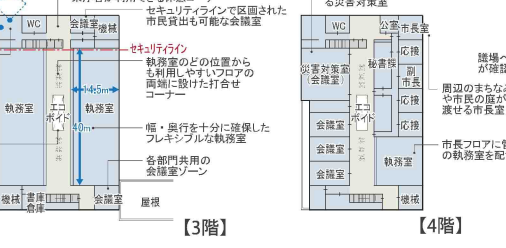
4 どこからでも市民の顔が見える「つむぎモール」

吹き抜けを介して1,2階の「つむぎモール」を一体的に計画することによって、どこからでも市民の顔が見え、声が聞こえる賑わいのある市民スペースを構成します。また同時に、セキュリティラインを明確にし、管理がしやすい安心できる計画とします。



5 合理的で無駄のない中廊下型の執務フロア

中央にエコポイを設けた中廊下形式を基本とし、自然通风、自然採光を取り入れた職員が働きやすい執務環境を整備することによって、市民サービスの向上につなげていきます。



テーマ(ア) 限られた敷地内で既存施設を活用し、市民の利便性と事務効率の向上が図られる、機能的でコンパクトな庁舎とするための提案

1 新本庁舎を1期で12,000m²建設し庁舎機能を集約

1期工事での12,000m²を建設
1期工事のみで庁舎機能をすべて整備し、行政機能を新本庁舎と南庁舎に集約します。
明かな施設構成と適切な縦動線
明快に誰にもわかりやすい施設構成とし、職員や一般来庁者といった施設利用者に応じた適切な縦動線を計画します。

2 市民活動を映し出すひとつながりの「つむぎモール」

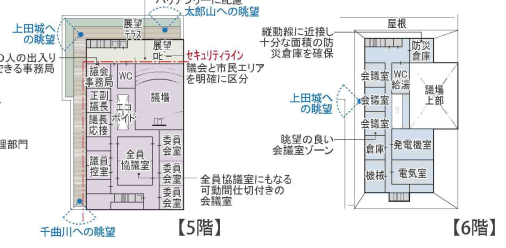
新庁舎と南庁舎を結ぶ「つむぎモール」
上田高校側「つむぎラウンジ」、大手通り側「大手ラウンジ」を配置し、2つのラウンジを窓口の待合スペースのある「つむぎモール」でつなぎます。
まちへつながる「つむぎモール」
「お堀端テラス」「新参町テラス」を整備し、自然な人の流れや交流を創り、まちなみもつなげていきます。

3 気軽に立ち寄れる「つむぎラウンジ」と「大手ラウンジ」

多様な市民活動スペース
1階に食堂、アテションなど設け、地場産業に貢献できる場とします。
2階に市民スタジアム、交流テラスを配置し市民協働スペースとして活用可能です。
一週間フルで使える市民交流拠点
明確なセキュリティ計画とすることで、時間外、休祭日も利用できる「拠点」となるほか、確定申告や期日前投票にも対応できる計画とします。

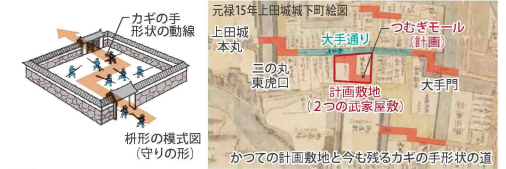
6 市民参加を促す展望テラスに囲まれた議会フロア

議会がない時期の議場は、市民利用するなど重ね使いも可能な計画とします。
上田市を一望できる市民開放も可能な展望テラスを設けます。
議会フロアにも市民エリアを設定しセキュリティを明確に区画します。



1 杵形(カギの手)の形状を踏襲した「つむぎモール」

上田城の城門が宿った土地「杵形」と呼ばれるカギの手状の道が多く残っています。敷地周辺に点在するこの「杵形」をうまく活用して市民スペース「つむぎモール」として庁舎内に再現します。
「つむぎモール」は庁舎内に人々が「ついで、のくちぐ居場所」であり、周辺地域との「つながりの中心」でもあります。



2 城下町の歴史を取入れた景観形成と環境共生

かつての三の丸武家屋敷にある庁舎の立地特性を活かし、当時の町並みの特徴であった、「門・塙・庇・格子」といった要素を新庁舎にも取り入れ、上田の歴史を継承しながら周辺建物との景観的な連続性と新たな景観形成の誘導を図ります。
庇による日射のコントロールや太陽光パネルの設置、縦格子による西日対策など、デザインのみならず、上田の気候を活かしたパッシブな環境共生装置として「門・塙・庇・格子」を活用します。



3 品格と親しみあがる「門と塙」による外構計画

大手通り沿いの外部空間には、来庁者をやさしく迎え入れる「ウェルカムゲート」としての「門」、駐車場への視線のコントロールや掲示板・観光案内を兼ねた「塙」、そして一休みできる「石垣ベンチ」等、品格と親しみを感じることのできる外構計画とします。



4 新本庁舎と「庇と格子」でつながる南庁舎

既存の南庁舎についても、低層部に庇や格子を設け、新本庁舎との景観的な一体感と調和に配慮した景観形成を図ります。
南庁舎と新本庁舎が庇でつながることによって雨に濡れず外への行き来ができます。

